第十九講・品詞①

●ことばの単位

ことばの決まりを学ぶうえで、まず知っておかなければならないのは「ことばの単位」です。ことばの性質や組み立て方などを理解するには、ことばを特定の単位で区切って考えることが重要です。ことばの単位は、大きいほうから順に次の五つがあります。

① **文章**…書き手の伝えたい内容をことばで表現したものの全体。話したことばの場合、談話・スピーチなどといいます。

② **段落（だんらく）**…文章を、内容の大きなまとまりごとに区切ったもの。段落には次の二つがあります。

・形式段落…段落の始まりは一字下げ、終わりは改行します。

・意味段落…いくつかの形式段落を、内容の上からまとめたもの。

③ **文**…まとまった内容を表すひと続きのことば。通常、終わりには「。」を付けます。

例　ぼくたちの家は、あの山のうらにあるのです。…一つの文

④ **文節（ぶんせつ）**…意味がとれるはんいで最も小さく区切った一区切り。文節の切れ目には、「サ」「ネ」「ヨ」などのことばをはさむことができます。

例　ぼくたちの／家は、／あの／山の／うらに／あるのです。

⑤ **単語**…文節をさらに小さく区切った、意味のあることばとして成り立つ最小の単位。

例　ぼくたち／の／家／は、／あの／山／の／うら／に／ある／の／です。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1 次の各文に斜線（／）を引いて、文節に区切りなさい。

(1) ここに荷物を置いて歩きましょう。

(2) 何年たっても忘れるはずがない。

2 次の各文に斜線（／）を引いて、単語に区切りなさい。

(1) 今日こそは敵の船を見つけるのだ。

(2) どうしてあなたは公園に来なかったの。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●品詞とは

単語を性質によって分類したものを品詞といいます。品詞には次の十品詞があります。

名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・
接続詞・感動詞・助動詞・助詞

●名詞

名詞は、ものごとの名前を表したり、指し示したりする単語で、「は」や「が」が付いて主語になれます。名詞はさらに次の五つに分類することができます。

① 普通名詞…ある種類のものごとをまとめて呼ぶのに使う名詞。
例　花　学校　緑

② 固有名詞…ある一つのものごとに対してだけ使う名詞。
例　二宮金次郎　富士山

③ 数詞…数や順序を表す名詞。
例　一台　二足　いくつ

④ 形式名詞…具体的な内容をもたず、必ず他の単語に修飾される形で使われる名詞。
例　何もいいことがない。

⑤ 代名詞…名前を呼ぶ代わりに、指し示す名詞。
例　これ　そこ　あなた

●動詞

動詞は、「どうする」や「ある／いる」などを表す単語で、言い切りの形がウ段の音で終わります。
また、あとに続くことばによって形が変わります。
これを活用といいます。

例　走る　ここでは走らない。
必死で走りました。
さっそうと走る。
速く走ることができません。
とにかく走ればいいのです。
どんどん走れ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1 次の文中から名詞をさがし、すべて書きぬきなさい。

それは一ぴきの小さな虫だった。日本海からの強い風を受けて、今にも飛ばされそうだ。よくこんなところにすんでいるものだ。

2 次の――線の名詞は、あとのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

(1) 寒いと思ったら、雪が降(ふ)りだしたようだ。
(2) 気が付いたときに言ってください。
(3) このクラスには三十人の生徒がいます。
(4) 姉は九州に旅行中です。
(5) それはぼくの教科書です。
(6) 君とはよく遊んだものだ。
(7) 君には何度助けられたか分からない。
(8) いったいどっちに行けばいいのだろう。
(9) ベートーベンのピアノ曲が流れている。
(10) 昨日、友達の家に遊びにいった。

ア 普通名詞　イ 固有名詞　ウ 数詞
エ 形式名詞　オ 代名詞

(1)　(2)　(3)　(4)　(5)　(6)　(7)　(8)　(9)　(10)

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3 次の文中から動詞をさがし、そのままの形ですべて書きぬきなさい。

ゆうべ、ぼくたちが勉強していたとき、いなずまが光った。弟はあわてておなかに手を当てておへそをかくした。

---

4 次の――線部の動詞の言い切りの形を答えなさい。

(1) 早く服を着なさい。

(2) よく観察すればが気がつくはずだ。

(3) ふたを開けられないようにしよう。

(4) どこかがまちがっていませんか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5 次の（　）内の動詞を、文に合うように活用させて、ひらがなで書きなさい。

例 何が何でも（勝つ）たい。→ かち

(1) たくさんの本を（読む）だ。

(2) こまがなかなかうまく（回る）ないんだ。

(3) ライトを上に（向ける）ば、まぶしくない。

(4) もう何が（起きる）てもおどろかない。

(5) 宿題の話はだれかに（聞く）たかい。

(6) だれかがこっちへ（来る）ようとしている。

(7) 向こうから馬車が（来る）ました。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　品詞①

【ことばの単位】

1
(1) ここに／荷物を／置いて／歩きましょう。
(2) 何年／たっても／忘れる／はずが／ない。

2
(1) 今日／こそ／は／敵／の／船／を／見つける／の／だ。
(2) どうして／あなた／は／公園／に／来／なかっ／た／の。

【名詞・動詞】

1
それ・一ぴき・虫・日本海・風・ところ・もの　(順不同)

2
(1) ア
(2) エ
(3) ウ
(4) イ
(5) オ
(6) エ
(7) ウ
(8) オ
(9) イ
(10) ア

3
勉強し・い・光っ・あわて・当て・かくし　(順不同)

4
(1) 着る
(2) 観察する
(3) 開ける
(4) まちがう

5
(1) よん
(2) まわら
(3) むけれ
(4) おき
(5) きい
(6) こ
(7) き

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。